

AEDの使用率の低下とその要因
末長真治 (22011176@tama.ac.jp)

1. はじめに

AEDの設置台数が年々増加し使用率もそれと同時に上昇していて、2019年にAEDの使用率は5.1%まで上がったが2020年には4.2%と約1%も下がっている。

一般市民が心原性心肺機能停止の傷病者を目撃した人数は2019年は25,560人で、2020年は25,790人とほぼ変わらなかったのに2020年にAEDの使用率が急に減少した。また、使用率全体としての数値が低く問題となっている。

仮説としてAEDの使用方法をどれくらいの人が理解しているのかを明らかにする。

・AEDの設置場所が分からないのはいか。

・救命活動を行う際の自信の無さや不安、責任感が大きく関わってくるのではないか。

2. 先行研究の分析

教育大学新入生947人を対象にアンケートを取った結果、AEDの使用方法を知っている人が54%、使用方法を聞いたことはある人が41%、知らない人が5%となっていて、いざという時にAEDが使用できるかという質問に関しては、できる25%、あまり自信がない68%、できない7%という調査結果が出ている。

3. 研究方法

- ・アンケート集計
- ・資料調査

4. 今後の課題とスケジュール

アンケート内容を作成し、4年次の最初に統計を取る。

参考文献

[210122-1houdou_h.pdf \(fdma.go.jp\)](https://fdma.go.jp/210122-1houdou_h.pdf)

https://aue.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=7061&file_id=15&file_no=1